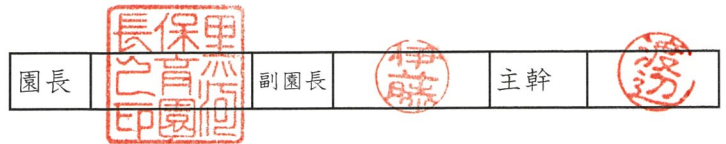


令和7年度



保育園における自己点検・自己評価

社会福祉法人 黒河児童福祉会
幼保連携型認定こども園 黒河保育園

- A: 大変よい
B: よい
C: 一部検討を要する
D: 改善を要する

① 保育の計画の編成と実施に関する評価

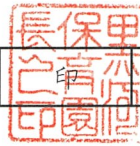
項目	内容	評価				意見・改善策
		A	B	C	D	
保育目標について	1、保育目標の具体化に向け、乳幼児の実態を踏まえた重点目標を設定しているか	○				<ul style="list-style-type: none"> 全職員が共通理解できるように職員会の工夫を図る 全体会・リーダー会議
	2、目標は、施設や地域の特徴を生かしているか		○			
	3、目標は、社会の要請や保護者の願いを反映しているか		○			
	4、目標は前年度の反省を生かしているか		○			
	5、目標は、全職員で検討し、かつ共通理解を図っているか			○		
保育について	1、指導計画は乳幼児の実態に即しているか		○			<ul style="list-style-type: none"> 素材、用具の確認 わかりやすい収納を目指す パート職員の研修への参加をすすめる ノンコンタクトタイムを増やす
	2、保育所保育指針に基づく援助、支援を適切に行っているか		○			
	3、環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫しているか		○			
	4、素材、用具を適切に活用しているか		○			
	5、評価結果を基に保育の改善に努めているか		○			
日時程	1、一人ひとりを丁寧に、みんなが気づいたこと、学んだこと、面白かったことは何か			○		<ul style="list-style-type: none"> 日々振り返り、明日につなげる保育の工夫 一人一人の日々の記録の工夫し、丁寧に子どもの姿を捉え、成長を記録していく
行事について	1、行事の種類や実施回数は適切か		○			<ul style="list-style-type: none"> 子どもの活動を主におく保育の見直し 行事のありかたの見直し
	2、行事のねらいを計画や実施に十分いかしているか		○			
	3、乳幼児の活動範囲を明確にし、自主的・実践的な活動にしているか			○		
	4、計画・実施・評価・改善体制をとっているか			○		
	5、保護者の願いや意見をとりいれているか			○		

② 保育の計画の編成と実施を支える諸条件に関する評価

項目	内容	評価				意見・改善策	
		A	B	C	D		
経営 組織	分掌 体制	1、能率的、合理的な運営組織になっているか			○		・職務内容ごとの目標を設ける
		2、職務内容が明確で、協働できる体制になっているか		○			
		3、職員の配置は適材、適所か		○			
		4、係りや仕事の分担・割り当ては適切か		○			
	運営	1、各種会議を適切且つ効率的に進めているか		○			・全体の打ち合わせの機会を増やす
		2、職員相互が立場を理解し、協力して運営に関わっているか		○			
		3、打ち合わせ回数、時間、内容は適切か			○		
	年齢別 ・ クラス 経営	1、年齢別、クラス目標は保育目標や重点目標に基づいて設定しているか		○			・チーム保育への振り返り
		2、年齢別、クラス目標は乳幼児の実態に即しているか		○			
		3、年齢別、クラス目標に迫る短期、長期ねらいは適切に設定しているか		○			
		4、同年齢及び異年齢児間の効果的な活動の充実を図っているか		○			
		5、意義や趣旨を理解したチーム保育を行っているか		○			
		6、評価、資料(諸記録)を集積しているか		○			
	保健 ・ 安全 指導	1、年齢別・クラス経営に生かされるような具体的保健対策を講じているか		○			・非常災害対策計画を見直す
2、避難訓練、交通安全指導を計画的に基づいて適切に実施しているか		○					
3、健康、安全な生活に必要な習慣や態度育成の為、家庭への啓発を行っているか		○					
4、乳幼児の安全確保のため、家庭、地域社会関係諸機関と連携を図っているか			○				
研究 ・ 研修	園内	1、研究主題は、保育目標の具現化につながるものか		○			・研修報告会の充実
		2、園内研修の計画、運営は適切か			○		
		3、研究の成果を日常の保育に活かし乳幼児の育ちに反映させているか		○			
		4、研究の実践による乳幼児理解が深まりを見せているか			○		
	園外	1、各種研究会、研修会、講習会への参加態勢の充実を図っているか	○				
		2、各種研究会、研修会、講習会での内容を園内に還元しているか		○			

項目		内容	評価				意見・改善策
			A	B	C	D	
開かれた 保育園 づくり	子育て 支援の 推進	1、地域の子育てセンターとして、園庭や保育室等を開放しているか				○	・プレパパ・プレママ事業の周知 ・今後、地域の子育て支援センター をつくる
		2、地域の子ども、親同士が一緒に遊べる場を設定しているか			○		
		3、「子育てについて」など、保護者を対象とした学習の機会を設定しているか			○		
		4、職員による育児に係る「子育て相談」は充実しているか		○			
		5、医療機関等専門機関との連携を図り保護者にも必要な情報を提供しているか		○			
	情報の 発信	1、園便り、クラス通信、ホームページ等で施設の情報を発信しているか			○		・ホームページの活用 ・メールの活用
		2、行事や子育て支援事業を、地域の連絡会や児童施設、小学校に周知しているか			○		
	外部 評価	1、第三者評価を導入し、施設運営に反映しているか			○		・第三者評価の受け入れ
		2、地域や保護者の意見を施設運営に反映しているか			○		
情報について		1、乳幼児や保護者に関する個人情報を適正に扱っているか	○				
		2、公文書收受、発送、処理を適切に行っているか	○				
		3、各表簿は、適切な時間、方法で作成処理しているか	○				
施設・設備		1、内外の設備の安全点検を計画的に行っているか	○				・美しく、子どもの心をとらえて 掲示する工夫
		2、遊具、用具等を活用しやすいように整理、保管しているか			○		
		3、不審者等に対応する周到な配慮を行っているか	○				
		4、掲示板、掲示場所等を適切且つ効果的に活用しているか		○			
出納・経理		1、各種会計を適正且つ適切に処理しているか	○				
開かれた 保育所 づくり	施設間 交流 ・ 連携	1、他施設との年間交流計画は、保育目標や課題に添ったものか		○			・交流するとき、目的をお互いに 持つこと ・保育者同士の施設見学 を行っていく
		2、幼児、児童、生徒が触れ合う中で乳幼児が楽しく過ごし、充実感を味わう配慮、援助を行っているか		○			
		3、指導者同士が打ち合わせ、事前、合同研修を行い、理解を深め、援助も共通理解しているか			○		
		4、参観や保育・授業に参加し、互いの教育について理解しているか			○		
		5、日常的に情報を交換し、それを交流活動に生かしているか			○		
	家庭 ・ 地域 社会 との 連携	1、参観時間を制限せず、保護者以外も対象とした参観日等を設定しているか				○	・保護者の意向を行事に生かす
		2、保護者含む地域の人材活用の時期内容は適切か		○			
		3、乳幼児の興味、関心に基づいて地域社会、その他の施設と交流しているか				○	
		4、地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れているか			○		

園長	副園長	主幹
----	-----	----



① 保育の構造的側面における質

- 1、物理的環境要因
子どもの発達をまず考え、ただ整っているのではなく、美しく心をこめて整えたい。
- 2、保育の運営体制
地域の把握に努め、子育て支援世帯についてもれなく支援できるよう周知を図る。(歌の森ヒルズ、四季の森黒河等)
子育て支援施設を近所に開設していきたい
- 3、保育者と子の比率
3歳以上児、7から8人に一人が理想
- 4、グループサイズ
0歳は4人くらいがよいのでは。全体で86人くらいが理想。
- 5、保育者の教育
処遇改善で研鑽が図られているが、体系的に学ぶ体制が大切。一人一人担当を決めきめ細やかに指導する。指導法をリーダー会で検討
- 6、採用条件
こどもが好きなこと。和を保つ力を持つこと。保育を体系的に組み立てる力があること。
- 7、保育に関する専門的訓練、研修
学び続けるシステム、研修の補助をしていきたい。研修報告の徹底、共有
- 8、保護者との関連性
情報開示の工夫。和を保つ努力。保育参加、意向を行事や保育内容に生かして生きたい。共に歩む姿勢
- 9、危機管理
食物アレルギーに関する管理体制の見直しを図る。保健室利用に関するきまり
- 10、地域や行政のサポート
地域での一貫した療育の体制作りが必要でないか。保健師さんが鍵となって実現できないか
- 11、行政
幼児期の質の高い保育が社会的利益につながることの発信、保育士不足の発信

② 保育のプロセス的側面における質

- 1、保育者と子どもの相互作用
子ども主体の環境設定について一つ一つ意味を考え、見直す
- 2、保育者の子どもへの態度
子どもの気持ちを丁寧に読み取る。優しいまなざしを持つ。
温かい人間性と優しさをもって、どんな子どもも自分に自身をもって希望をもって今後歩んでいけるような保育に努める。
- 3、保育の構造への配慮
一人になりたい時、ゆっくり過ごせることができる場所の確保。気持ちを切り替えることのできる場所の工夫
- 4、学習活動の取り入れ
年齢別で押さえないことを、遊びのなかから学べる環境づくり。子どもの気持ちを読み取り学ぶ意欲に結ぶ。
- 5、保護者との相互理解
子どもの育ちを共有し、共に喜ぶことのできる方法の工夫。楽しく子どもと向き合える援助
- 6、地域への関わり
子育て世帯をれなく支援する。マイ保育園事業、プレパパ・プレママ事業も広報する。地域の人と子ども達が触れ合える機会を持つ。
- 7、保育者の人間関係
和を保つ。一人一人の思いを汲み取る。丁寧に後輩を指導する。感謝の気持ちを常に持ち言葉に表す。
- 8、保育者の意識
共に伸びる、共に自己形成していこうとする態度。感謝と努力と精進。
- 9、スーパーバイザーの存在
いなくては困るのではないが、自らも常に保育を振り返り、考えることができること
今後、課題を明確にして定期的にきていただきたい
- 10、保育の振り返り
評価、検討の工夫、様式の見直し。常に次に生かす記録のとり方と工夫。保護者との共有の方法と検討。

③保育者の労働環境の質

- 1、賃金 処遇改善による事務処理を如何に簡単にするか タブレットの導入
- 2、福利厚生 和を保つための懇親会を豊かに持つ
- 3、時間 残業はしないが、希望があればできる体制。ワークライフバランスを共に考える
- 4、保育者の満足度 運営に参画できる体制作り。自ら進んで自分の研究したい分野があること
- 5、運営参加 リーダーと心を通わせて自分の意見をのびのびと述べられる関係。社会人としての意識の徹底
- 6、離職率 長く続けることの意味を伝える
- 7、ストレスの意識度 ケアに努める。人材を作る
- 8、職場の美しさ 常に美しいということ。使いやすい、便利ばかりではない。

- ・子ども一人一人が群像の感覚を持ち、集団の中でどのように生き生きと自分らしく社会生活を送っていくことができるか。和を保って他人を思いやる、確かな知性と豊かな人間性を育むことができるか 一人一人丁寧に、子どもがゆったりと安心できる関わりの中で、子供の気持ちを丁寧に読み、汲み取り、学びへと結ぶ。幼児期の保育の重要性に身を引き締めて努めていきたい。
- ・子ども主体とはどういうことか。環境の一つ一つを考えぬいて設定する。美しくあること。すぐに物を準備できる為の整頓。備品管理の徹底
- ・対人関係が、まず知識よりも人間性と優しさにあることを肝に命ずる。
- ・子育て支援体制を見直す
- ・職員の働き方、研修、自己研鑽の状況が賞与に反映する人事評価の見直し。
- ・一人一人の良いところを大切に、自発性と意欲を育てる
- ・「令和」という言葉の意味について
「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つという意味がこめられている
悠久の歴史と薫り高い文化、四季折々の自然、こうした国柄をしっかり次の世代へと
引き継いでゆく、一人一人の日本人が明日への希望と共にそれぞれの花を
大きく咲かせることのできる相した日本でありたいとの願いをこめ、令和と決定した」
その文化理解が現代日本の教育には欠けているといわれている。
幼児期にふさわしい文化の体験を大切にしていきたい